

質 問 者 鈴 木 公 義

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 復旧工事中の安全対策 は	震災から２年９カ月が過ぎましたが、未だに町内
	各所で復旧半ばのところが多く見うけられます。人
	材不足、業者不足、さらに資材不足等によるもので
	あり、今では復旧の遅れに対して半ば諦めムードも
	漂っています。
	五部浦地区の県道女川牡鹿線や北浦地区の国道 398
	号の復旧工事が進められているところですが、工事
	中の通行車両に対する安全対策が不足していると思
	えます。例えば五部浦において、高白から横浦間で
	ガードレールの横板が外され、代わりに 10 ミリほ
	どのロープが張られています。走行に関して注意を
	促す看板は数カ所設置されているものの、ロープの
	先は急峻で深い崖のところも数多くあります。また、
	北浦においては工事個所のガードレールがすべて外
	され、代わりに鉄パイプのバリケードが置かれてい
	ます。
	工事のため仕方のないことは理解しますが、危険
	な状態が長期間になっています。事故はいくら注意
	を払っても、不慮の事態で起こることも少なくあり
	ません。生活道路であるそれらの道路工事において、
	通行する車両ができる限りリスクの少ない方法で工

質 問 者 鈴 木 公 義

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 震災遺構はどうする	事に当たるべきと考えますが、見解を伺います。
	(質問の相手：町長・担当課長)
	震災遺構に関する議論が、このところ各地で活発
	になってきています。復興庁が整備の初期費用に、
	国の復興交付金を充てて支援すると発表したことに
	よるものです。本町はこれまで結論を先送りにして
	きましたが、ここにきて町長から方針が発表された
	ところです。
	2011 年 6 月、震災後すぐに組織された町の復興計
	画策定委員会が「津波による鉄筋ビルの倒壊は世界
	的に珍しい」として、保存の方向性を示しました。
	学術的観点から残すべきとの判断であったと認識し
	ています。
	後世に何を伝えるために、どんな方法で何年間残
	したらいいのか、考えを伺います。
	(質問の相手：町長)